

世界防災フォーラムにおいてセッション「エビデンスに基づいた災害メンタルヘルス対応と防災に向けた展望」を開催しました（2017/11/27）

テーマ：災害精神医学、災害医療、仙台防災枠組
 場所：仙台国際センター（宮城県仙台市青葉区）

世界防災フォーラム会期中の平成 29 年 11 月 27 日（月）15 時半～17 時にセッション「エビデンスに基づいた災害メンタルヘルス対応と防災に向けた展望～効果的な国際協力に向けて～」を開催しました。

災害科学国際研究所 災害医学研究部門の江川新一教授、富田博秋教授が座長をつとめ、（1）茅野竜馬先生（WHO 健康開発総合研究センター WHO 神戸センター）「災害後のメンタルヘルスに関する国際協力を強化する上で求められる科学技術の進歩」、（2）金吉晴先生（国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所）「災害後のメンタルヘルス支援のための IT 技術開発の展望」、（3）金谷泰宏先生（国立保健医療科学院）「災害救援のための衛星・シミュレーション技術の活用に向けた展望」、（4）富田博秋（東北大学 災害科学国際研究所）「エビデンスに基づいた災害精神医学の確立による有効な災害メンタルヘルス支援と防災体制」の講演・討論が行われました。

災害対応や防災における心の健康の問題への関心は高まってきており、仙台防災枠組にも書き加えられていますが、依然、見過ごされがちな問題であること、心の健康の問題は捉え難く、また、地域や状況により様々な様相を呈するため、それを必要とする人達に丁度求められる心理社会的な支援を提供することは本質的に難しいことであるという課題が共有され、その解決に向けた有用な取り組みとして、科学研究の現状と展望が論じられました。ICT 技術を含めた科学研究の推進や知見集積のためのミニマムデータセットに関するコンセンサス形成の面等の連携が話し合われました。



第1席（登壇：茅野竜馬先生）



第2席（登壇：金吉晴先生、座長：江川教授）



第3席（登壇：金谷泰宏先生）



第4席（登壇：富田教授）